



●身近な事って捨てたもんじゃない！

瀬川化学工業株式会社

代表取締役 瀬川 憲

最近、身近に色々なヒント、話題、お笑い等なかなか捨てたもんじゃないな、って思っています。

会社経営と言うか、製造現場で儲からないのは、システムとかやり方のまずさ以前に我々、管理監督者及び経営層のタイマンからくる事が現場を周り、又作業者と話す中で痛いほど痛感しました。

作業台が低くて腰が痛くなるとか、作業手順書もなく、そして作業手順も教えないまま作業をやらせ「サイクルが遅い、どうなっているのだ」など作業者を悪者にするとか、やりにくい作業をそのまま放置していたり、まだまだ大きな改善をする前に作業者の声に耳を傾け、やりにくさ等の小さな改善を少しづつやっていこうと思っています。

今、当社では、朝に「朝会」と言って異常報告連絡会を実施しております。まだまだ作業現場は、異常の連発であり、それらをつぶし、そしてやりにくさを聞き込み改善していけば、きっと良い現場になると思うし、まだまだ身近な所に儲けのネタが転がっていると思います。

それから、身近な言葉で意味も知らず平気で使って、知っている振りをし続けている事もありました。例えば、時計の区分ですが、だいたい手動巻、自動巻、クォーツと3区分になりますが、手動巻、自動巻は、だいたい分かりますがクォーツって「おー！クォーツか」で終わってしまい、私が聞いた人達は、ほとんど意味を知らないのが現状でした。これ一つでも話題のネタになりますよ！「クォーツ」とは、水晶のことであり、水晶は電気を与えることで1秒間に3万回以上の規則的な振動があり、それを秒に変換したものだそうです。これは、セイコーが時計化に成功して世に出したそうです。そまでの時計は、1日に15秒くらい(1ヶ月で7~10分)狂うのが当たり前の時代だった頃なので、1ヶ月に数秒しか狂わない腕時計が発明された訳です。それはもう大騒ぎで

「クォーツショック」として世界を震撼させたそうです。知っていましたか？

これらはすべて、私が学生の頃、ある人から自分の言葉を持ちなさいと言われたことから、いろいろ分からない言葉を調べるようになったのが今に至っています。わからない言葉に出会った時、自分でその意味を調べ自分の言葉にするように心がけています。クォーツを例に取ると、「この時計は、クォー

ツなんだよ」と人から聞いた時「おークォーツか」で終わらせずに少し自分で調べ「水晶の電氣的振動を秒に変換するのでクォーツと言う」これらが分かれば、「この時計は、水晶の振動を利用したクォーツなんだよ」と一応自分の言葉にして皆に言うことが出来るし、これらを積重ねていると、いろいろ知識も豊富になるし現在も行っている私の勉強方法の一つであります。

最後に身近なお笑いネタです。それは、まだまだ使われている名古屋弁です。久しぶりに笑っちゃった会話を紹介します。自分自身意味がわかっちゃうので名古屋っ子だと痛感しました。

【あるモノ造り工房で、オヤジさんと職人の会話】

オヤジ「まあひょー出来たのか？」

…… (製品を確認)

「おみゃー、たわけか！」

「こんなもん、あかすか！」

「しゃべってばっかいるんで、間違えるんだわ！」

「ちいとなあー、だましかって仕事できんのか！」

「明日までだぞ！」

職人「ばんげにやときますわ！」

オヤジ「ばんげにやるんだったら、今からまわしとけよ！」

「それから、この部品高いんで、だだくさに使えんやないぞ！」

職人「ハイ、ハイ…あ〜おそが！おそが！」

わかったかな？多少中身を飛ばし名古屋弁の所をピックアップしたけれど

*名古屋弁について

私の恩師である現在南山大学文学部教授：安田文吉教授より

名古屋弁はのぼす語尾の発音は、「ゃ〜」ではなく「ぁ〜」と言っています。

例)「どえりゃ〜」ではなく「どえりぁ〜」

「エビふりゃ〜」ではなく「エビふりぁ〜」だとき！

以上まだまだ身近にいろいろな事があり、面白いと思いますよ！